

資料 2

科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会
学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会
(第87回) R1.12.10

学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ2020 審査様式(書面審査)

※ 文字サイズは11pt以上で記載ください。

基本情報1: マスタープランにおける情報

分野	計画番号	大型施設計画/大規模研究計画	重点大型研究計画 (※該当する場合は○)
計画名称(日・英)			
(日)			
(英)			

基本情報2: 計画提案者情報

計画提案者名	電話番号	メールアドレス
所属機関(中核機関)		
連携機関		

0. 全体概要

次頁以降に記載の評価の観点 1. ～ 8. までの内容を含めるとともに別途添付の様式 1 「年次計画」と併せて、2 枚以内で概要を記載ください。

(概要)

(年次計画)

項目 (研究テーマ)	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年目 以降	備考
1. ○○○○○○												
成果指標	※				※					※		
2. ○○○○○○												
成果指標	※				※					※		
3. ○○○○○○												
成果指標	※				※					※		

必要とする年次までの予定を矢印等で記入し、中間年度（5年目目途）及び最終年度における成果指標を、原則定量的な指標として記載ください。
 また、成果指標は、学術的に達成し得る内容を記載するのではなく、それにより実現が見込まれる内容を記載いただくようお願いいたします。
 （例；学術研究等を行う中核的な拠点となること（論文数 等）、国際共同研究を先導する機能を果たすこと（国際研究同研究の実施件数 等）、若手研究者の育成やその活躍機会の創出に貢献すること（共同利用・共同研究に参画するポストドクターを含む若手研究者数 等）、今後建設を予定している大型施設については、その過程でもたらされる技術的成果を記載 等）
 なお、既に事業が進捗している場合は、開始時点における現状の数値を確認するため、1年目（2020年1月時点）における実測値を「1年目」の欄に記載ください。

大型施設計画の場合は、施設完成後数年以内の初期運用期間を加え必要な年限を設定ください。

項目（研究テーマ）
 大規模研究計画であれば、主パートの開発設計、建設、調整試験、運用等を記入ください。
 大規模研究計画であれば、研究組織構築、研究推進の具体的準備、共同利用運用等。

※記入スペースが足りない場合は、枠を広げるなど様式を修正して頂いても構いませんが、1頁以内となるように作成ください。

1. 計画の学術的意義

【具体的視点】

新たな知を創出・蓄積し、継承・発展させ、人類社会の持続的発展の基盤を形成するかという観点や新たな知への挑戦を通じて広く社会で活躍する人材を育成し、現在及び将来の人類の福祉に寄与するかという観点から計画の学術的意義を記載ください。

具体的には、以下の点について、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

- ・研究者の知を基盤にして独創的な探求力により新たな知を開拓できるか（挑戦性）
- ・学術研究の多様性を重視し、細分化された知を俯瞰し総合的な観点から捉えているか（総合性）
- ・異分野の研究者や国内外の様々な関係者との連携・協働により新たな学問領域を生み出すことができるか（融合性）
- ・世界の学術コミュニティにおける議論や検証を通じて研究を相対化することにより、世界に通用する卓越性を獲得するなど世界に貢献することができるか（国際性）

また、学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ（以下「ロードマップ」という）は学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン（以下「マスタープラン」という）を参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

（概要） 5行以内で記述ください。

（本文） 各実施機関において、自由に記述ください。

（マスタープラン申請時からの変更点） あれば自由に記述ください。

2. 研究者コミュニティの合意

【具体的視点】

- ・研究者コミュニティの合意形成の状況は明確か。
について、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。
なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。
申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。

3. 計画の実施主体

【具体的視点】

- ・実施主体における計画の推進体制は明確になっているか。
 - ・多数の機関が参画する場合、責任体制と役割分担は明確になっているか。
- について、別途添付の様式6「実施機関における意思決定の状況」に加え、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。

(その他資料) 別添の様式6「実施機関における意思決定の状況」について添付・貼付ください。

(様式6) 実施機関における意思決定の状況

本計画を推進するにあたって、実施機関における意思決定の状況についてそれぞれ、記入ください。

役員会などで審議を行い、予算措置が見込まれる場合は、実施機関として推進する承認を得ている。	
実施機関の長（学長・機構長など）へ計画について説明し、予算措置が見込まれる場合は、機関として推進する了承を得ている。	
実行組織（部局、研究所など）へ計画について説明し、予算措置が見込まれる場合は、実行組織として推進する了承を得ている。	
実施機関、実行組織の長などの了承はまだ得ていない。	
その他（現在の状況を説明ください。）	

- ・ マスタープラン2020への提案時点における状況を記載すること。
- ・ 実施機関内での会議の議事録など当該状況を説明する資料がある場合は、参考資料として添付すること。

4. 共同利用体制

【具体的視点】

- ・ 共同利用・共同研究の実施体制が確立されているか。
- ・ 幅広い大学の研究者が参画できるか。

について、別途添付の様式2「予算計画」「④実施組織及び海外研究機関の共同利用計画」に加え、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。

(その他資料) 別添の様式2「予算計画」「④実施組織及び海外研究機関の共同利用計画」について添付・貼付ください。

<様式2>

④実施組織及び海外研究機関の共同利用計画

(時間)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年目以降	合計
〇〇大学〇〇研究所												0
□□大学□□研究所												0
△△国△△大学												0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

複数の研究機関が主体となる場合は各機関毎の大型施設利用時間を記入ください。

5. 計画の妥当性

【具体的視点】

- ・ 計画の準備スケジュール・実施スケジュールが明確になっているか。
- ・ 実施可能なスケジュールとなっているか。
- ・ 建設費及び運用費は妥当か、十分検討されているか。
- ・ 予算計画、人員計画は妥当か、十分検討されているか。
- ・ 計画の準備状況（予備研究・技術開発・体制整備）は着実になされているか。
- ・ 建設終了後の運用計画が十分に検討されているか。
- ・ 計画終了後のコミュニティへの波及効果、将来展望はどうか

について、別途添付の様式2「予算計画」①②③⑤⑥⑦、様式3「人員計画」、様式4「施設・設備の詳細」、様式5「計画期間終了後の方針など」に加え、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

（概要） 5行以内で記述ください。

（本文） 各実施機関において、自由に記述ください。

（マスタープラン申請時からの変更点） あれば自由に記述ください。

（その他資料） 別途添付の様式2「予算計画」①②③⑤⑥⑦、様式3「人員計画」、様式4「施設・設備の詳細」、様式5「計画期間終了後の方針など」について添付・貼付ください。

<様式2>

①所要経費の計画

(百万円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年目以降	合計
施設・設備費												0
人件費												0
運営費												0
その他の経費												0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

項目ごとに計画に必要な年次までの概算を記入ください。

②国費・自己資金の計画

(百万円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年目以降	合計	申請状況
国費												0	
海外からの提供資金												0	
自己資金(外部資金)												0	
自己資金(独自資金)												0	
自己資金(その他)												0	
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自己資金割合(%)													

国費：当該計画を支援するために特別に措置される経費。

海外からの提供資金：国外の研究機関及び資金配分機関から当該計画のために特別に措置される経費。

自己資金：当該計画を支援するために特別に措置される経費以外の資金。計画実施組織による独自資金及び外部からの資金を指します。

合計：「①所要経費の計画」の合計と一致するよう作成ください。

申請状況：a. 決定済、b. 申請済、c. 申請予定をプルダウンから選択ください。該当がない場合は空欄のままにしてください。

③実施組織内での配分計画

(百万円)

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	10年目以降	合計
〇〇大学〇〇研究所												0
□□大学□□研究所												0
△△大学△△研究所												0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

複数の研究機関が主体となる場合の各機関毎の所要経費を記入ください。

合計は「①所要経費の計画」の合計と一致するよう作成ください。

⑤国費部分で実施する主な内容及び国費での支援が必要である理由

⑥自己資金部分で実施する主な内容及び自己資金獲得予定・見通し

計画が実施された後、自己資金で費用を負担できる内容や、自己資金の獲得計画について記入ください。

※計画していない場合は、その旨、記入ください。

⑦国際分担の見通し

計画が実施された後、国際分担で費用を負担できる内容や、国際分担の計画について国際交流協定等の締結の状況等とともに記入ください。

※計画していない場合は、その旨、記入ください。

(国際交流協定等の締結状況)

名称	形態	締結年月	終了予定年月	相手国	機関名	国内機関名	概要(研究分野、協定に基づく活動等)
(例1) ●●大学と■ ■研究所における学術 交流に関する協定	協定	2018年4 月	2023年3 月(5年 ごとに自 動更新)	英国	◆◆研究所	●●大学(▲▼学 長)	★★分野における☆☆☆プロジェクトの実現に向けた各 国の貢献・協力内容を定めたもの
(例2) ☆☆☆プロ ジェクトに係る運営に 関する覚書	協定	2019年4 月	2023年3 月	インド	◆◆大学◇◇研究 所	●●研究所(▲▼ 所長)	☆☆☆の建設開始までのプロジェクトの運営について定 めたもの

※記入スペースが足りない場合は、枠を広げるなど様式を修正して頂いても構いませんが、3頁以内となるように作成ください。

<様式 3 >

	準備・立上げ期		建設期/組織整備		運用期/研究運用	
	1年目～〇年目		〇年目～〇年目		〇年目以降	
	機関内の 人員	機関外 からの 支援	機関内の 人員	機関外 からの 支援	機関内の 人員	機関外 からの 支援
シニアレベル研究者 (教授、准教授 等)						
ポストドクレベル研究者 (講師、助教、ポストドク 等)						
技術職員 (エンジニア、テクニシャン 等)						
事務員						
その他						
合計						

大型プロジェクトを推進するにあたって、必要な人員計画を記入ください。

※大型施設計画の場合は、施設建設時と運用時に分けてください。

※大規模研究計画の場合は、組織整備に係る人員数と研究運用に係る人員数を明示ください。

※連携先の機関や、研究コミュニティからの支援を予定する人員数は、機関外からの支援欄に記載ください。

機関内人員について役割及び確保方針を記載ください。

	役割	確保の方針
シニアレベル研究者 (教授、准教授 等)	プロジェクトリーダー 〇〇〇〇に関する主担当	機関内の人員を充当
ポストドクレベル研究者 (講師、助教、ポストドク 等)	〇〇〇〇の推進 〇〇〇〇担当	国費により雇用
技術職員 (エンジニア、テクニシャン 等)	〇〇〇〇〇の維持管理	自己資金により雇用
事務員	〇〇〇〇に関する事務作業	自己資金により雇用
その他		

※記入スペースが足りない場合は、枠を広げるなど様式を修正頂いても構いませんが、2頁以内となるように作成ください。

<様式4>

①本計画に関連する主な現有設備

この研究計画のために利用可能な主な現有設備について記入ください。

研究機関	設備名	仕様（形式・性能）	専用・共同利用の別	設置年度	備考
〇〇大学 〇〇研究所	〇〇〇〇	・・・・・・・・	共同利用	平成 〇年度	
□□研究所	□□□□	・・・・・・・・	共同利用	平成 〇年度	

②本計画において新たに整備を行う大型施設の概要（大型施設計画のみ）

建設に要する期間	件名	建設額 (百万円)	設置機関	建設用地の状況 (該当に○を記入)	
				建設用地取得済	
〇年	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇百万円	〇〇大学 〇〇研究所	建設用地未取得	
妥当性・必要性					
現存又は建設予定の競合する海外の大型施設との比較					

「年次計画」との対応が分かるように記載ください。

③本計画において新たに整備を行う大型施設に関する社会・国民の支持（大型施設計画のみ）

建設用地の状況 (該当する全てに○を記入)	
建設用地住民との合意協定調印済	
建設用地全ての自治体との合意協定調印済	
建設用地に関する反対運動有	

④本計画において新たに整備が必要な主な設備備品の明細

購入予定時期	品名・仕様	単価 (百万円)	金額 (百万円)	設置機関	妥当性・必要性
〇〇年目	〇〇〇〇〇〇〇	〇〇	〇〇〇	〇〇大学 〇〇研究所	

「年次計画」との対応が分かるように記載ください。

＜様式5＞計画期間終了後の方針など

○計画期間終了後の方針（国からの支援が終了した後の考え方）について

本欄には、次の点が明確に読み取れるよう留意して記述ください。

- ・国からの支援が終了した後の考え方
-

○当初の計画とおりに進まない場合の考え方（予算の措置状況等を踏まえ、当初計画の大幅な変更が必要となった場合）について

本欄には、次の点が明確に読み取れるよう留意して記述ください。

- ・計画通りの予算措置とならなかった場合の考え方
 - ・国からの支援が計画期間の途中で打ち切られた場合の考え方
-

6. 緊急性

【具体的視点】

- ・ 早期に実施することの重要性と国際的 競争・協力において、我が国が得られるメリットや優位性は何か。
- ・ 実施の遅れにより危惧される我が国への影響はどのようなものか。

について、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。

7. 戦略性

【具体的視点】

- ・当該分野での世界トップレベルの成果をあげ、我が国の強みをさらに伸ばすこととなるか。
- ・他分野への波及効果等はどうか。
- ・国際貢献や国際的な頭脳循環につながるか。
- ・将来的な我が国の成長・発展につながるか。
- ・計画を実施しないことによる国の損失はどうか。

について、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。

8. 社会や国民の支持

【具体的視点】

- ・社会や国民に計画の意義・必要性を説得力をもって説明することができるか。
- ・長期間にわたり巨額の国費を投入することについて、社会や国民の支持が得られるか。
- ・地域社会の行政及び住民との信頼関係が構築されているか。

について、絵やエビデンスデータを用いつつ、具体的かつ明確に記述ください。

なお、ロードマップはマスタープランを参考にして策定することから、基本的にはマスタープランに申請時の内容に基づき記載ください。

申請時から変更点があれば、別途明記ください。

(概要) 5行以内で記述ください。

(本文) 各実施機関において、自由に記述ください。

(マスタープラン申請時からの変更点) あれば自由に記述ください。